資料 1

将来を展望した池田町立小中学校の義務教育のあり方に関する答申書

令和８年２月

池田町義務教育のあり方検討委員会

目　　次

１　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

２　「池田町立小中学校の義務教育のあり方」に関する答申　・・・・・・・・　１

３　本答申に至る経過　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

（１）「現在の学校のよさと課題、解決策」について・・・・・・・・・・・・　３

（２）アンケート調査結果から読み取れること　・・・・・・・・・・・・・・　５

（３）少子化に対応した学校のあり方について　・・・・・・・・・・・・・・　８

【資　料】

資料１　諮問書
資料２　池田町第二次教育大綱
資料３　池田町義務教育のあり方検討委員会設置要綱
資料４　池田町義務教育のあり方検討委員会委員名簿
資料５　池田町義務教育のあり方検討委員会部会委員名簿
資料６　児童・生徒数の推移
資料７　義務教育に関する第１回保護者、児童・生徒、教職員アンケート
　　調査結果

１　はじめに

本委員会は、「池田町義務教育のあり方検討委員会設置要綱」に基づき、令和６年９月 25 日に第１回委員会が開催され、池田町教育委員会から以下の内容の諮問を受けた。

諮問事項

「将来を展望した池田町立小中学校の義務教育のあり方について、総合的な見地からの検討」

本委員会ではこの諮問を受け、令和８年１月２６日までの間に９回の委員会、１回の研究部会を開催した。

児童生徒の減少が著しい当町の現状を踏まえつつも、子ども、保護者、教職員の願いを生かしながら、子どもたち一人ひとりの興味関心や個性、特性、能力等の多様性が尊重される学びの環境を作り、地域に誇りを持ち、地域や学校の良さを生かした魅力ある学校の実現という視点から丁寧な議論を重ねてきた。なお、財政面については考慮していない。

本委員会は今までの検討内容等を踏まえ、池田町立小中学校の義務教育のあり方について、以下の通り答申する。

２　「池田町立小中学校の義務教育のあり方」に関する答申

（１）児童生徒の減少への対応

両小学校の各学年の児童数が 10 人以上を維持している場合は、池田小学校、会染小学校の２校体制を維持する。

両小学校の同一学年の児童数が、合計で 20 人未満または 20 人を超えていても一方の学年が 10 人未満となる状況が二つの学年で生じ、さらに人口動態調査等で児童数の増加が難しいと予測される場合、小学校を２校から１校に統合・再編等することを前提とした検討組織を立ち上げる。その際、中学校のあり方を含めて検討する。なお、さらなる偏りや不測の事態が生じた場合は、教育委員会の判断により検討組織を立ち上げる。

（補足説明）

・委員会においては、少人数であっても適切な教育は可能であり、継続して２校体制を維持するという意見と、少子化の進行がさらに進むことが予想されることから、できるだけ早く再編をすべきであるという意見があったことを申し添える。

・統合・再編等することを前提とした検討組織の立ち上げ基準となる児童数については、「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」（昭和 33 年法律第 116 号）において、小学校における２の学年の児童で編制する１学級の児童の数が 16 人（第１学年の児童を含む学級にあっては、８人）と規定されおり、特別支援学級に在籍する児童を考慮し、上記のように 20 人とした。

（2）学校の教育活動

現在、どの学校も「池田町第二次教育大綱」の精神を大切にし、保小中が連携しながら、子どもを主体としたICTを活用した教育を積極的に行っている。このことを大切にしながら、全ての児童生徒一人ひとりに寄り添った指導や支援、子どもたちの主体性や個性を大切にした取り組みを行う。さらに、多様な人間関係とコミュニケーション力を培うために、縦割り活動や異学年交流等を進めていく。学校の教育活動については積極的に地域へ知らせ、地域及び保小中間の連携を図っていく。

（3）学校の教育環境

学校においては、子どもたちが心身ともに安全安心な学校環境を担保しながら、子どもたち個々の学習活動が充実するように、時代の要請に対応した学習が進められるよう計画的に整備を進める。

また、教職員が個々の子どもに応じてしっかりと向き合うことや、ゆとりを持って授業の準備を行うことができるように、教職員の働き方改革を進めていく。

3　本答申に至る経過

検討を進めるにあたり、現在の学校の姿をできる限り正確にとらえようとした。各校長から学校経営や学校自己評価について説明を聞きながら、「現在の学校のよさと課題、解決策」についてグループ討議により各委員から意見を出し合い、その後全員で協議を行った。

また、検討の参考とするために児童・生徒の保護者、児童（３学年以上）・生徒、教職員からアンケートをとることとした。子どもの数の減少にかかわり、「学級の子どもの数」と「学年の学級数」についてどのように受け止めているかを質問した。

さらに、義務教育学校についての理解を図るため、美麻小中学校と八坂小中学校の各校長から直に義務教育学校について話を聞く機会を設けた。

これらを踏まえ、少子化に対応した学校のあり方について協議を行ってきた。

検討委員会及び研究部会開催状況

〇検討委員会

回	期　日	内　　容
第 1回	R6. 9.25	会の目的、児童生徒数の見込み、公立小中学校の適正規模、義務教育学校等、教育大綱、コミュニティ・スクールについて
第 2回	R6.11.28	各学校の学校経営と取り組み、保護者・児童生徒・教職員アンケート調査について、池田町の小中学校のよさと課題（GW）
第 3回	R7. 1.27	各学校の学校評価、保護者・児童生徒・教職員アンケート調査について

		池田町の小中学校の課題への対応（GW）
第 4 回	R7. 4.16	保護者・児童生徒・教職員アンケート調査結果について
第 5 回	R7. 6.26	保護者・児童生徒・教職員アンケート結果を踏まえての今後の小中学校のあり方について
第 6 回	R7. 8.18	義務教育学校について（美麻小中学校長・八坂小中学校長の講話）
第 7 回	R7. 9. 4	少子化を見据えた学校のあり方（GW）と全体協議
第 8 回	R7.11.26	答申案について
第 9 回	R8. 1.26	答申案について
第 10 回	R8. 2.25	答申の提出

＊GW：グループ討議

○研究部会

第 1 回	R6.12.17	保護者・児童生徒・教職員アンケートについて

グループ討議等で出された意見は次のとおりである。（抜粋）

（1）「現在の学校のよさと課題、解決策」について

1）現在の学校のよさ

①子どもの学びや職員の姿

・子どもが素直　・優しい子どもが多い

・子どもたちが元気　・はっきりした声が響く　・笑顔がこぼれている

・友達のことを気にかけている

・６年生が１年生に教えるなど、縦割り活動が行われている

・意欲的に授業に取り組んでいる　・学習集団としてのまとまりが感じられる

・自分で考える授業が行われている

・子どもたちが作る、子ども主体の行事や活動

・子どもが主体の教育で自ら考える力が養われている

・ＩＣＴ環境が充実しており、積極的に活用している

・多様な活動が行われている

・どの学校も大綱を意識しながら運営している

・それぞれの学校に文化がある

・学校以外の居場所として中間教室がある

・保小中の連携が進んでいる（・授業や保育を見合う　・保小や小中の交流）

・教職員のまとまりが感じられる

・２つの小学校があるのは人間関係の固定化（中学校に進んだ時）につながらなくてよい

・町の支援が手厚い

②地域・保護者

・地域との連携がとられ、つながりがある

・祭りへの参加（お囃子など）

・おちつきのある地域　子どももおちつきがあり礼儀正しい

・地域の方とのコミュニケーションができ、進んであいさつが交わされている

③児童数・生徒数

・児童数、生徒数が現在適切　・ちょうどよい

・子どもが少ない方が先生の目が行き届く　・一人ひとりの子どもに手厚くできる

・人が少ないので団結力が醸成しやすい

2）現在の学校の課題と解決策

①子どもの学びや職員の姿

課　　題	提　案　さ　れ　た　解　決　策
先生のやることが多い（先生の負担大）	・教員の増員を行う　・専門家の配置（カウンセラー、療法関係） ・授業内容の見直し　・やることを精選する　・軽重を付ける ・地域の人々が授業づくりに参加する ・部活動を地域に移行する
教員の裁量に任されている一方で一人よがりになる面もある	・学校間の交流を増やす ・学校運営協議会と教員の交流を行う ・保護者と学校のつながり方を工夫する ・複数学級あれば隣のクラスの先生と相談できる
不登校問題への対応	・居場所支援　・学校の中から変わる ・学校での競争を最小限にする　・町で専門の人を配置する

②地域・保護者

課　　題	提　案　さ　れ　た　解　決　策
学校の情報が地域に届いていない	・アプリで発信する ・様々な形で発信していく（SNS だけに依存しない） ・学校だよりを回覧版に入れる　・ＨＰの充実 ・学校活動のＰＲ　・今ある文書を活用（新たな負荷をかけない） ・ＬＩＮＥにＨＰ更新情報を流す
保小中の文化をそれぞれ大切にしているが、共有に留まっている	・発表、共有して終わるのではなく、お互いのフィードバックをする
街頭での子どものあいさつが少ない	・大人からあいさつする　・声掛け　・あいさつ運動

③児童数・生徒数

課　　題	提　案　さ　れ　た　解　決　策
人間関係づくりが難しい	・定員を少なくする　・コミュニケーションの多い授業を行う ・異学年や他の学校との交流
児童数・生徒数が少ない 生徒激減	・行政、交通アクセスの改善　・移住、住宅補助金の拡充 ・公主体の宅地造成 ・魅力的な教育環境をつくり教育移住を進める （ex 大日向　風越　福山市） ・少ない子どもたちでないとできない学習を深める
生徒数が多い高校等へ進学した際、馴染めるか不安	・人数の多い学校との交流活動
ひとりにかかる負担が大きくなる	・児童生徒の人数に見合った活動を行っていく
活動できることが限られてくる	・集団学習をするために合併を考える ・地域の方々を巻き込んで活動していく

④その他

課　　題	提　案　さ　れ　た　解　決　策
池田町の将来のビジョンと学校教育のありかた	・10 年、20 年先どんな池田町にしたいのかというビジョンを共有する
池田町の財政面	・企業誘致　・人口増対策（就業）　・土地活用の促進
15 年プランがよくわからない	・教育大綱、「子どもがまんなか」の共有

（2）アンケート調査結果から読み取れること　＊詳細は資料を参照

①１学級当たりの児童・生徒数について

保護者

・保護者の６割近くは「現在の学級の人数を適当」と考えている。また３分の１程度は「現在より人数が少ない方が適当」と考えている。

・「現在の人数を適当と考える」あるいは「現在より１学級当たりの児童・生徒が少ない方が適当と考える」を選んだ保護者の多くがその理由として「それぞれの児童・生徒に応じた指導・支援を受けることができる」をあげている。

児童・生徒

・児童生徒の６割程度は、「ちょうどいい」と思っている。また、４分の１程度は「今より多い方がいい」と考えている。

・児童・生徒の半数近くは、設問４（その理由）において「友だちがたくさんできる」を選んでいる。

教職員

・教職員の半数以上は、「現在より人数が少ない方が適当」と考えている。また、４割程度は「現在の人数を適当」と考えている。
・教職員の７割程度は、設問３（その理由）において「それぞれの児童・生徒に応じた指導・支援を受けることができる」を選んでいる。

②１学年あたりの学級数について

保護者

・保護者の６割近くが、「複数級（２学級以上）が適当」と考えている。また、４分の１程度は「単級、複数級どちらでもよい」と考えている。
・設問６（その理由）において、「一人ひとりの児童生徒に目が行き届く」と「多様な人間関係をつくることができる」をそれぞれ４割以上の保護者が選んでいる。

児童・生徒

・児童生徒は、４割近くが「２学級以上がいい」と思っているが、「何学級でもいい」と「１学級がいい」をそれぞれ３割近くが選んでいる。
・設問６（その理由）において、児童・生徒の４割程度が「多くの友だちと接することができる」を選び、次に「友達とより仲良くなれる」、その次に「一人ひとりをしっかり見てもらえる」と続いている。

教職員

・教職員の４分の３程度は「複数級（２学級以上）が適当」と考えていて、２割程度が「単級、複数級どちらでもよい」を選んでいる。
・設問５（その理由）において、「一人ひとりの児童生徒に目がいき届く」と「多様な人間関係をつくることができる」をそれぞれ４割以上の教職員が選んでいる。

③現在の学校で取り組んでいることについて、今後も続けていってほしいこと（自由記述）

保護者

・子どもに応じた指導支援がなされていること、子どもの自主性を尊重した取り組み、授業改善等について、評価する意見が寄せられている。
・コミュニティ・スクールの取り組みや地域との協働活動、ＰＴＡの見直し等について肯定的な意見が出されている。

・肥後守やスコラ手帳など学校独自で取り組んでいることを前向きに捉える意見が出ている。

児童・生徒

・学校行事や学年行事、児童会あるいは生徒会活動を楽しいと感じている児童・生徒が多くいることがうかがえる。
・異学年交流を含め、仲間と仲良く過ごすことをこれからも続けていきたいと思っている。
・学校独自の活動を大切にしたい気持ちがあることが見える。

教職員

・子どもを主体とする学校行事や授業改善を前向きにとらえている。
・働き方改革や地域とのかかわりを肯定的に考えている。

④こんな学校になってほしいと願うこと（自由記述）

保護者

・一人ひとりに寄り添い、各自の主体性を生かした学校を願う声が多数寄せられている。
・学力の定着や考える力の育成を求める声が上がっている。
・個々の教育内容についての希望がある。
・地域とのつながりやＰＴＡについて希望が出ている。

児童・生徒

・仲良く楽しい学校を望む声が多く寄せられている。
・施設改修の希望が出ている。

教職員

・働き方改革を進め、子どもも教職員も楽しいと感じる学校を希望している。

⑤アンケート調査結果のまとめ

・現在行われている学校の取り組み（学習・行事・特色ある取り組み等）について、肯定的に捉えている記述が多い。
・特別支援教育を含め、児童生徒一人ひとりに寄り添った指導や支援を希望する意見や子どもの主体性や個性を大切にした取り組みを求める意見が複数寄せられている。
・地域とのつながりやＰＴＡのあり方について意見が出ている。
・校舎や設備の修繕に対する希望がある。

（３）少子化に対応した学校のあり方について

委員会において、委員より出された意見は次の通りえある。（抜粋）

１）当分の間現状のままとする

①子どもの人数が今後も減らないのであれば、現状のままでよい。

②移住定住の推移を見る。当分の間現状のまま。

③現状で行くが、５年後には状況がよりはっきりするので３年後から検討する。

④令和 12 年度または 13 年度までは現状のままでいく。

⑤小学校統合や義務教育学校ということであれば結論を出すのに数年かかる。

⑥もう数年経過すると今後の出生数がはっきりしてくると思う。

⑦５年後までは現状のまま。５年くらいすると状況がはっきりするのではないか。

⑧１クラスの人数が 10 人未満になる時は検討が必要。

⑨２校合わせて１クラス 30 人を切ることがはっきりした時（３年後あたり）に統合を検討する。

２）小学校の統合あるいは義務教育学校にする

①小学校は統合したほうがよい。

②保育園が統合したので、小学校に上がる時に友達と別れたくないという声を聞いている。

③令和 10 年度から各小学校で学年複数級にならなくなるので統合したほうがよい。

④７年度にあり方検討委員会まとめ、８年度に教育委員会で検討、９年度に統合で進める。

⑤５年後をめどに小学校の統合を考える。校地、教育課程、通学方法等の検討が必要。

⑥小人数は必ずしも子どもをよく見てくれるとは限らない。少人数の学校ほど特別支援学級の在籍率が高くインクルーシブになっていない。

⑦両小学校が 100 名を切るのが令和 13 年度。そこに向けて準備を進め、義務教育学校を目指す。

⑧５年後には両小学校で入学児童が 30 人を割る。５年後には義務教育学校にする必要がある。

⑨会染、池田それぞれに義務教育学校をつくる。

⑩義務教育学校は考えない。現在の義務教育学校は課題が多く、未解決の部分が多い。

３）まとめ

現状の子どもの数による教育環境については、現在の学校体制の維持、または統合・再編等のどちらを選択しても教育環境に大きな影響はなく、一番悩む人数であるという意見が出た。当分の間現状のままという意見の委員もほとんどが、児童数の減少を見極めて、統合や義務教育学校について検討することを求めている。令和８年度に開園する民間の保育園による児童数の影響も含め、教育環境の向上に努めつつ、もうしばらく現状を見た上

で、児童数の減少が止まらないのであれば、小学校の統合・再編等（中学校を含め）を前提とした検討組織を立ち上げることが望ましいということで全委員の一致をみた。